

2023年3月期 第2四半期決算 決算補足資料（質疑応答集）

この質疑応答集は、2022年11月14日発表の2023年3月期 第2四半期決算に関して、発表以降に株主、投資家などの方々からいただいたお問い合わせ、感想、当社からの回答をまとめたものです。なお、ご理解を賜ることを目的として一部表現の加筆・修正を行っております。（「第114期(2023年3月期)第2四半期 決算説明会」資料もご参照下さい。）

質問①：来年の原材料価格と為替の動向についてどのような想定をされていますか？

回答①：昨年より原材料価格の上昇が続いており、顧客に値上げを認めていただいても交渉の間にさらに値上がりし、価格転嫁が追いつかないという状況でしたが、ここへきてピークは過ぎたと感じています。ナフサ価格は夏場をピークに下がり始めており、しばらくは現行水準が続くものと思います。為替についても急激な円安のピークは過ぎ、来年は130円台で推移するのではないかと考えています。価格転嫁が進んでいない顧客に対しては引き続き丁寧をお願いをしていき、業績の回復に努めてまいりたいと考えております。

質問②：赤字が続いている産業資材セグメントに関して、収益改善に向けた抜本策はあるのでしょうか？ また、この部門の黒字化の目途はついていきますか？

回答②：産業資材セグメントに関しては、前期(第113期)の上期に若干の黒字を計上しましたが、その後、原材料価格の高騰によって赤字となりました。このため、他のセグメントと同様に販売価格の改定に努めております。生産面においては、当社の2工場と東邦樹脂工業(株)、シノムラ化学工業(株)の4カ所の生産拠点において、現在、品目単位の生産体制をとっておりますが、生産効率を高めるため、各品目を共通する製品群にまとめて各拠点の割当てを改めるなど、収益性の改善を図っております。また、販売部門や間接部門についても子会社との機能統合によって経費削減を進めていくことを検討しています。

ご質問のこのセグメントの黒字化の時期ではありますが、今後の原材料価格の動向に大きく左右される面があるため現時点で明言はできませんが、早期の黒字化に向けてグループ全体で取り組んでまいります。

質問③：御社の営業利益はこれまで10億円を超えるレベルでしたが、最近はこれを下回っています。来期以降、どのようにして10億円レベルに戻す考えでしょうか？

回答③：軽包装材料、産業資材、機能性材料の3つのセグメントとも、環境関連や成長分野に向けた、新しい製品の拡販を含め売上を伸ばしていくことで収益を確保すること、生産効率化を図ることなどにより従来営業利益水準への回復を図っていく所存です。

以上